



いのち支える自殺対策推進センター ニュースレター 第33号 (2024.07.17)



いのち支える自殺対策推進センター（JSCP）のニュースレターにご登録いただき、どうもありがとうございます。本号では、6月にタイ・バンコクで開催された「国際自殺予防学会（IASP）アジア・太平洋地域大会」について特集します。JSCP職員が登壇したシンポジウムや研究発表の模様に加え、自殺対策をめぐる各国の多様なテーマについてもお伝えします。本ニュースレター初の「職員インタビュー」にもご注目ください。

また、第120回日本精神神経学会学術総会での代表理事・清水康之のシンポジウム登壇の様子や、国際交流についてもお伝えします。

最後までぜひご覧ください。

※このメールは、本ニュースレターの配信をご希望された方や、当団体の活動を通して、ご連絡先を頂戴した方に送信しております。今後メールの受信をご希望されない方は、お手数をおかけし大変恐れ入りますが、[こちら](#)から配信停止手続きのほど、お願いいたします。

<ニュースレター第33号トピックス>

1. 【特集】国際自殺予防学会（IASP）アジア・太平洋地域大会参加報告
「職員インタビュー」分析官・谷貝祐介
2. 【登壇報告】第120回日本精神神経学会学術総会に代表理事・清水が登壇
3. 【こども・若者】中高教職員向けのゲートキーパー研修プログラムを開発
4. 【国際連携】The Winston Churchill Memorial Trustのミリアン・ジョセフ氏が来訪
5. 【関連情報】日本自殺総合対策学会「2024年政策研究会」が開催されました

1. 【特集】国際自殺予防学会（IASP）アジア・太平洋地域大会参加報告

国際自殺予防学会（IASP）とは

1960年に創設された国際自殺予防学会（International Association for Suicide Prevention : IASP）は、世界保健機関（WHO）と公式な協力関係にある組織であり、自殺対策に関わる、世界79か国の関係者から構成されています。IASPは、エビデンスに基づく自殺対策推進のための研究成果や取り組み事例の共有、また国をこえた協力関係を築く場として、国際大会とアジア・太平洋地域大会を1年おきに開催しています。

「第11回 国際自殺予防学会（IASP）アジア・太平洋地域大会」が2024年6月3日から4日間、タイの首都バンコクにて開催され、37か国から295名が参加し（大会事務局発表）、JSCPからも4名が参加しました。参加者は大学・専門組織の研究者や精神科医、心理職、教育関係者のほか、行政職員や電話相談など自殺対策にかかわる実務家、メディア関係者や自死遺族などでした。



会場となったバンコク・ランドマークホテル

研究発表、シンポジウム、ポスターセッション等、演題は計167に上り、学際的な雰囲気の中、自殺予防・自死遺族等支援に関する様々な研究結果や取り組み成果が発表されました。

◆JSCP関係者の発表◆

2023年にIASP「リングル活動賞」を受賞している代表理事の清水は、国家レベルの自殺対策政策に関する知見を共有する2つのセッションに登壇し、下記の演題で発表しました。いずれのセッションも、国際的・地域的協力を促進することを目的としており、韓国、台湾、マレーシア、香港など、国や地域をこえたベストプラクティスを探ろうとする試みです。

- 「Systematic Suicide Countermeasures: Policy, Intervention, and Community in Japan（日本における体系的な自殺総合対策：政策、介入、地域社会）」
- 「The Basic Act on Suicide Countermeasures as a Societal Structural Approach（社会構造的アプローチとしての自殺対策基本法）」

清水は、日本の自殺対策の政策的な枠組み作りに関わってきた経験を踏まえて、自殺対策を社会作りとして推進するための法的根拠である「自殺対策基本法」の目的や理念等について説明し、あわせて、同法を土台として設計されている自殺総合対策の仕組みや工夫されている点などについて解説しました。

セッション後は、「自殺対策基本法」が成立するまでの政治的イニシアチブに関する質問や、地域連携の取り組み等に関し、様々な質問が寄せられました。



発表する代表理事・清水



同じセッションの登壇者と

また、調査研究推進部／自殺総合対策部の分析官である谷貝祐介も、こどもの自殺に関する口頭発表を行いました。

- 「Exploring Factors and Countermeasures of Adolescent Suicide: An Analysis of 5-Year Student Suicide Reports in Japan（日本におけるこどもの自殺の多角的な要因分析に関する調査研究）」

同じセッショングループの4人の若手研究者は香港、オーストラリア、イギリス、カナダから参加しました。いずれもこども・若者の自傷行為や自殺対策に関する研究成果について発表し、発表後もそれぞれの研究について熱心な質疑応答と交流が行われました。

（谷貝のインタビューは記事後半に掲載）

発表の合間のランチやティータイムでは、タイの地元食材がふるまわれました。参加者は各国の自殺対策の現状の共有や、研究に関する意見交換などを行い、交流を深めました。



発表をする分析官・谷貝



同じセッションの発表者と



休憩時間に他国の参加者と情報交換をする
自殺未遂者支援室長・青木藍（中央）



会場では軽食のサービスなど、
参加者同士の交流を促す工夫がされていた

◆ 多様なテーマ ◆

自殺に関する報道・情報が受け手に与える影響に関する研究では、テレビ・新聞といった伝統的なメディアに関してだけでなく、ソーシャルメディアなど新しいメディアに関する研究も各国で進められており、それらに関する最新の取り組み等が発表されました。近年のソーシャルメディアの勃興がこども・若者の自傷行為等に与える影響の研究や、グローバルなメディア企業と協働してのウェブ広告を使った自殺予防・相談の取り組みなどに関する発表も、注目されていました。

また、アジア・太平洋地域大会ならではの文化的側面を取り上げたシンポジウムや発表も多くみられました。東アジアや東南アジア諸国の文化的価値観で、面子（めんつ）を非常に重んじるとされる「フェイス・カルチャー」が自殺予防に及ぼしうる影響に関する講演や、宗教的な観点からの自殺予防の介入等もシンポジウムのテーマとなっていました。

前大会に引き続き、オーストラリアの先住民族であるアボリジニやトレス海峡諸島民のウェルビーイングに関するシンポジウムや講演も複数ありました。先住民族は、その差別や迫害の歴史から文化・アイデンティティの欠如に起因するトラウマやメンタルヘルス上の課題を多く抱えているといわれています。15歳から34歳のアボリジニおよびトレス海峡諸島民の主な死因は自殺であり、自殺死亡率はオーストラリア人全体のおよそ2倍に上ることから、自殺を防ぐためのコミュニティを通じた介入や自死遺族等支援のプログラムについても発表がありました。

— JSCP職員インタビュー —

IASPアジア・太平洋地域大会で研究発表した分析官・谷貝祐介

「数字の裏にある、亡くなった方一人一人の人生に目を向けたい」

今回の国際自殺予防学会（IASP）アジア・太平洋地域大会では、分析官の谷貝祐介が、JSCPがこども家庭庁の委託により2023年度に実施した「こどもの自殺の多角的な要因分析に関する調査研究」の概要について発表しました。（調査の詳細は [こちら](#)）

調査実施の背景には、2022年に小中高生の自殺者数が、過去最多の514人となったことなど、こどもの自殺が深刻な状況があります。

谷貝に、学会発表を通して感じたことや、JSCPでの仕事、自殺対策への思いなどについて聞きました。



【略歴】

谷貝祐介（やがい・ゆうすけ）
1993年、茨城生まれ。2014年より、早稲田大学人間科学部および同大学院にて、熟練のリズム運動を支える身体協応に関する研究に従事。博士（人間科学）。2021年より、株式会社ARISE analyticsにて、通信会社向けの施策効果検証業務に従事。因果推論や機械学習を含む幅広い分析を経験したのち、2023年12月より、JSCP分析官。

学会での発表を通して感じたことは？

谷貝）私の発表後、同じくこどもの自殺の増加が深刻なマレーシア、台湾、香港、韓国などの研究者や民間団体関係者が、熱心に感想を伝えてくれたり、助言をくれたりしました。「参考になりそうだから」と、論文を山ほど送ってくださった著名な研究者の方もいました。

会場ではランチや休憩時間などにも、参加者同士が交流できる場が多く設けられていました。各国からの参加者との交流を通し、社会問題の解決のために各自が持っている知見を惜しみなく共有し合い、「みんなで解決していこう」という強い思いを受け取りました。私に論文や助言をくださったのも、日本の自殺の状況を少しでも良くしてほしいという期待の表れだと受け止めています。

こどもの自殺について情報交換をする中で、各国のこどもの自殺者数が増加しているという事実は共通していても、その背景にある事情は全く異なることが分かりました。このことから、社会文化的な背景をきちんと見ていくことなしに、有効な自殺対策はできないののだと感じました。パソコンに向かって分析をしていると、数字だけを追いかけてがちになり、数字の裏にある故人やご遺族お一人お一人の悩みや苦しみ、人生が見えにくくなる場合があります。しかし、亡くなった方が「何に悩み、どうやって死に至ったのか」に目を向け、丁寧に分析していくことの重要性を改めて感じる貴重な機会となりました。

■本インタビューの続きは [こちら](#) よりご覧ください

2. 【登壇報告】第120回日本精神神経学会学術総会に代表理事・清水が登壇

代表理事の清水が2024年6月21日（金）、札幌医科大学医学部神経精神医学講座主任教授の河西千秋氏が会長を務める第120回日本精神神経学会学術総会の「会長企画シンポジウム1 東アジアの自殺対策における national policy と現況（座長：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所長の張賢徳氏）」に登壇しました。

清水は「自殺総合対策のパラダイムシフトを生んだ政策的枠組みの構築：この20年で実現したこと、できなかったこと」のタイトルで、日本の自殺対策の特徴やこれまでの歩みについて説明し、自身の経験も踏まえて対策推進において大切にしてきた理念や戦略などについても語りました。続いて、韓国からはペク・ジョンウ氏、台湾からはシーチェン・リャオ氏がそれぞれの国の自殺対策の現状と課題について発表しました。その後、張賢徳氏と河西千秋氏による進行のもと、東アジア地域の自殺対策における現状と課題について意見交換が行われました。



シンポジウムに登壇した代表理事・清水（第120回日本精神神経学会学術総会 提供）

3. 【こども・若者】中高教職員向けのゲートキーパー研修プログラムを開発

JSCPは、中高教職員を対象としたゲートキーパー養成のための研修プログラムを開発し、独立行政法人教職員支援機構（NITS）の協力のもと、オンデマンド動画配信を開始しました。希死念慮のある児童生徒からのSOSのサインに気づき、寄り添い、適切な支援に繋ぐためのコツを、ケーススタディを通して分かりやすく学ぶことができる内容となっています。また、この研修プログラムでは、その有効性を科学的に検証するための調査研究を行っており、協力者（中高教職員）を募集しています。本研修プログラムおよび調査研究の周知に、ぜひご協力をおねがいします。

■詳しくは[こちら](#)よりご覧ください

4. 【国際連携】The Winston Churchill Memorial Trustのミリアン・ジョセフ氏が来訪

2024年6月17日（月）、英国のThe Winston Churchill Memorial Trustの研究員ミリアン・ジョセフ氏がJSCPを訪問されました。英国では昨年より分野横断型の自殺対策5か年戦略がスタートし、日本の自殺対策の歩みを参考とするのが目的です。会議前半は、主に日本の2000年代以降の自殺対策の歩みと現状についてJSCPより説明し、後半はこども・若者の自殺予防と要因分析について意見交換しました。



（左から）分析官の谷貝祐介、調査研究推進部長の西尾隆、ミリアン・ジョセフ氏、自殺未遂者支援室長の青木藍

5. 【関連情報】日本自殺総合対策学会「2024年政策研究会」が開催されました

日本自殺総合対策学会は2024年6月25日（火）、「2024年政策研究会～民間団体の活動から学ぶ」をオンラインで開催し、学会員・一般を合わせて約240名が参加しました。

JSCPは今回の政策研究会を厚生労働省と共に後援しています。

当日は、若者の社会的孤立・孤独の問題に取り組む渡辺ゆりか氏（一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト 代表理事、日本自殺総合対策学会理事）による講演「孤立する若者を中心としたネットワークの『効果』と『限界性』から自殺対策を考える」が行われました。渡辺氏は、一人の相談者のためにオーダーメイドのチームをつくる伴走型支援を紹介し、「専門性より関係性」を合言葉に支援者・支援機関の専門性を越えてつながることが地域の力になると強調しました。

■詳細はこちらの[「抄録」](#)をご覧ください

■YouTubeの「JSCP_広報室」チャンネルで、研修動画等を順次公開中

<https://www.youtube.com/channel/UCNWP2O5zTuul-j8GITEKzHQ>

■Yahoo!ニュースエキスパートで、JSCPとして自殺問題・自殺対策に関する記事を配信しています
（JSCP広報室長・山寺が執筆）

<https://news.yahoo.co.jp/byline/yamaderakaoru>

今後も、JSCPをどうぞよろしくお願いいたします。

なお、配信停止をご希望の場合には、以下のページから、お手続きをお願いいたします。

<https://jscp.or.jp/newsletter/>

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人いのち支える自殺対策推進センター（JSCP）

広報室 news@jscp.or.jp



<https://www.facebook.com/JSCP.press>



https://twitter.com/JSCP_press

https://twitter.com/JSCP_www